

2010年3月3日

ミャンマーサイクロン 復興支援の様子④

サイクロン・ナルギスが発生して、今年の5月で2年になります。昨年4月に60校の学校再建事業を開始し、今年5月末の完成を目標に、急ピッチで建設とモニタリングが進んでいます。資材の調達や運搬の困難などもある中で、エンジニアをはじめとしたミャンマー赤十字社職員、村の建設委員会メンバー、建設業者などの関係者が一丸となって取り組んでいます。以下に、その様子をお伝えします。



チャイラット地区建設現場。オレンジ色のシャツを着ているのは、ミャンマー赤十字社職員。

©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区建設現場。30フィート×90フィートの校舎には、教室までの階段を2つ設置します。

©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区。防災強化型の校舎となり、高潮、洪水の被害を避けるため、土台の高さは5フィートになりました。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区。井戸からくみ上げられた水は、手洗いやトイレに使用。写真のようにきれいな場合は、飲料用にもなります。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区、トイレ建設の様子。トイレはすべて、校舎の離れに建設されます。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区、トイレ内部の様子。左側に水洗・手洗い用の水槽が設置されています。©ミャンマー赤十字社



ラプタ地区で完成した校舎。あとは井戸の完成を待つのみ。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区、完成間近の校舎。校舎前の道は、雨季に備えて、住民の手により0.6mの高さに盛り土されました。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区。村の建設委員会委員長の家で意見交換。委員会メンバーが、24時間体制で建設中の学校を見守っています。©ミャンマー赤十字社



ディディエ地区。仮校舎で勉強を続ける子どもたち。今年の6月からは、広々とした新校舎で勉強ができます。©ミャンマー赤十字社